

## 授業づくりの工程

前題材までに到達している実態を把握

子どもに望む姿を想定

指導内容の決定  
(研究生産物を基に)

学習指導要領の指導  
内容から段階を決定

## 題材目標の決定

教材の設定

題材設定の立場記述

## 題材計画構想

授業構想シートを活用

## 本時案作成

題材開始

R研で毎時間の授業の  
評価・改善

題材終了

観点別評価の実施

## 実践事例

指導内容：小学部2段階 A聞くこと・話すこと

教材と仕組み：『パズルを集めよう!』(全9時間)

お手伝い(教師の指示を聞いて、その行動をする)をすると、お礼にパズルのピースがもらえ、グループの全員で一つのパズルが完成する

題材目標

知・技：「●●(場所)の▲▲(人)に■■(色)の★★(もの)を○○(もらっ/渡し)てきてください」の指示を聞いて、それぞれの視点カードの中から、指示に沿ったカードを選び取ることができる

思・判・表：場所、人、色、ものの視点を含む教師の指示を聞いて選んだ絵カードで作った“おてつだいボード”を見て、どのように行動するかを考え、渡すかもらうかを判断して、指示に沿って行動することができる

学び：ことばがもつよさを感じ、他者のことばを聞こうとする態度を養う

評価規準

知・技：指示を聞いて、場所、人、色、ものの視点カードを正しく選び取る

思・判・表：指示を聞いて、指示に沿って行動する

学び：することカードを見て、指示を聞く場面で耳に手をあてて聞くことを意識する姿が見られる

学習指導要領の内容から  
三つの柱の  
題材目標を  
決定する  
経緯と整合性  
の根拠

ポイント

### 子どもへ望む姿と学びの系統性

〈実態と学びの系統性(中3生徒1名)〉

・日常生活において、2~3語文の簡単な指示を聞いて行動することができる

「(場所)の(人)に(もの)を渡してください」の指示を聞いて、指示に沿って行動する(前年度)

場所、人、色、もの、動作の視点を含む指示を聞きとって行動する

〈小学部2段階の内容〉

【知識及び技能】ア(ア)、(ウ)

【思考力・判断力・表現力等】

イ 簡単な指示や説明を聞き、その指示等に応じた行動をする

▶実態と学びの系統性、望む姿から、小学部2段階の目標と内容を設定した

主体的で対話的で深い学び  
の実現に向けた工夫

ポイント

### “聞いて”“見て” 自分でたしかめる

誤答時は選び直すことができるように、指示を聞いて選んだカードを、iPadで“聞いて”“見て”自分で確かめるようにした



iPadと自分のボードを比べる

知識及び技能と  
思考力・判断力  
・表現力等の  
それぞれの内容の  
高まりや  
つながり  
について

ポイント

### 焦点化と段階化

〈知識及び技能の高まり〉

①聞き取る視点を2つから5つへと徐々に増やす

②教師のことばかけや指さしなどの支援を受けて選ぶことから一人で選ぶ

〈思考力・判断力・表現力等の高まり〉

①行動の仕方を判断する(渡すのみ→もらうのみ→渡す・もらう)

②教師のことばかけや指さしなどの支援を受けて行動することから、一人で行動する

生徒へ負荷がかかりすぎないように…

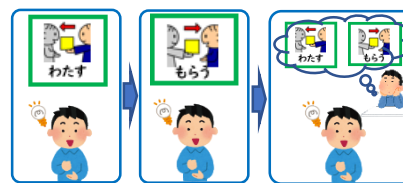
・内容を細かく段階化し、1時間の授業で学習する内容を焦点化した

・知識及び技能、思考力・判断力・表現力等それぞれの①と②の段階を同時に上げないように配慮した

ポイント

### 判断につながる 題材計画

聞き取った視点に沿って行動するとき、動作の仕方を判断して行動することができるように、2つの動作の仕方をそれぞれ確認した後、題材後半に、2つの動作のどちらかを判断して行動する場面を設定した



三つの柱の目標を達成するための働きかけや工夫

ポイント

### 主体性を引き出すための子どもの「わかった!」

〈知識及び技能〉

・本題材での新たな視点(色)について確かめるために、色を題材とした絵本の読み聞かせをする

・聞き取る視点に注目できるように、聞く視点を視覚的に提示する

〈思考力・判断力・表現力等〉

・動詞と動作の仕方が一致するように、身近なことばで伝えて確認する

〈学びに向かう力・人間性等〉

・自分から課題に取り組むことや友だちの様子にも注目することができるように、指示に沿って行動することで、みんなで一つのパズルが完成するように教材を設定した

## 気づき・改善 考察

○学びの系統性と子どもの日常生活から想定される場面からの題材目標と場面設定が重要であるとわかった

・学びの系統性と子どもの実態から前題材までに学んでいる視点に新たな視点を追加した題材目標を設定したが、子どもの日常生活とつながらないものとなってしまったため、学びの系統性だけでなく、子どもの日常生活で起きうる場面を想定して、題材目標を設定する必要があると気づいた

○細かく段階化し、新たな学びや教師の支援の減少などの段階を同時に上げないように配慮することが意欲的に取り組むことにつながるとわかった

・知識及び技能、思考力・判断力・表現力等ともに、一度に学習する内容を絞り、題材計画において各視点の内容を一度に上げないようにすることで、題材を通して生徒が主体的に課題に取り組む姿が見られた

○自分でできる正誤判断が、自分からやり直すことや意欲的に取り組むことにつながるとわかった

・iPadを使用し、聴覚的、視覚的に自分で正誤判断をできるようにすることで、自分から課題に取り組むことや、間違えたときには再度課題に向かう姿が見られたので、自分で正誤判断ができる場面を設定するとよいとわかった



## 授業づくりの工程

前題材までに到達している実態を把握

子どもに望む姿を想定

指導内容の決定  
(研究生産物を基に)

学習指導要領の指導  
内容から段階を決定

題材目標の決定

教材の設定

題材設定の立場記述

## 題材計画構想

授業構想シートを活用

## 本時案作成

題材開始

R研で毎時間の授業の  
評価・改善

題材終了

観点別評価の実施

## 実践事例

指導内容：聞くこと・話すこと 小学部3段階 知識技能：イ(ア) 思考力、判断力、表現力：カ

教材と仕組み：『クイズ どうしてでしょう』で「なぜ」と聞かれて相手に伝わるように、理由を答える。  
原因と結果の様子を示すイラストを見て、「なぜ」と聞かれたことに答えてポイントを獲得する仕組みで行った

### 題材目標

知識・技能：「なぜ」と問われたとき、理由を選んだり、答えたりする

思・判・表：問われたことに答えるとき、原因と結果のつながりの要素がわかり、  
つながりの要素と理由を話す

学 び：提示された問題に取り組み、伝わりやすさを考えて話す

### 評価規準

知識・技能：問われたことに対する理由を答えたり、選択肢から選んだりする

思・判・表：問われたことへの答えとなる理由と、原因と結果のつながりの要素を話そうとする  
理由とならなかった事柄について、なぜそれが理由とならないのかを話そうとする

学 び：提示したすべての課題に自ら取り組み、ゆっくりと相手に伝わる声の大きさを話す

〈原因〉



〈結果〉



知識及び技能と思考力・判断力・表現力等の  
それぞれの内容の高まりやつながりについて

三つの柱の目標を達成するための  
働きかけや工夫

### 結果から理由を考えることへの取組

〈考えを出しやすく〉

結果の場面から理由を考えることにより、どうしてこうなったか生徒が考えるときに、様々な考えを出しやすくと考えた。

〈理解しやすく〉

結果に到達した要因を生徒が自由に挙げることで、理由とは結果につながった事柄であることを理解しやすくと考えた。

〈相手に伝わりやすく〉

理由や、原因と結果のつながりを伝えることができるようになってからは、イラストのできごとを時系列でみていくようにし、問われたことに対しての理由を考え、答えるようにした。

〈結果だけのイラスト〉



〈できごとを時系列に並べたイラスト〉

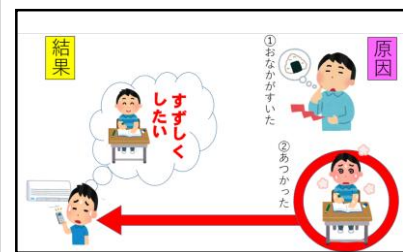


主体的で対話的で深い学び  
の実現に向けた工夫

ポイント

### ICTの活用

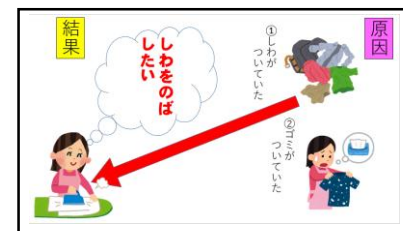
原因と結果がわかりやすいよう、パワーポイントのアニメーションを使ってイラストを示し、こうなったのは(結果)、こんなことがあった(原因)からだと思えやすいようにした。



ポイント

### 原因とならない理由

原因として挙げなかった事柄について、なぜそれが原因とならなかったかを考えることで、原因と結果のつながりの理解をより深められると考えた。そこで理由を述べた後で、他の事柄が原因とならないことを答える場面を設けた。

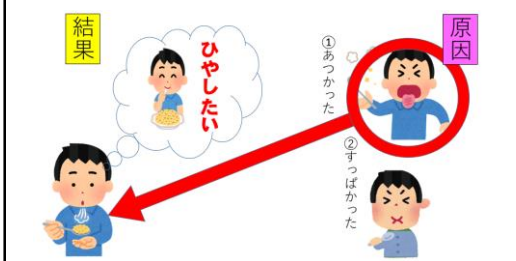


「アイロンをかけてもゴミは取れないから」のように答えられるとよい。

### 原因と結果のつながりの要素を考える取組

原因と結果がどのようにつながっているかを問うことで、原因と結果を結びつけているもの(要素)が何か考えるようにした。結果の場面での行動から生じる効果や影響などを考えることによって、つながりの要素を考えやすいようにした。要素を挙げることができたときには、要素が原因と結果にどうつながっているのかさらに問い、生徒が答えた内容を教師がつながりを整理して伝え、理解を深められるようにした。

〈原因と結果のつながりの要素を示したもの〉



息をふきかけると食べ物冷える→「食べ物が熱くて冷やしたかったからです」のように答えられるとよい。

## 気づき・改善 考察

- ・結果の場面(なぜこのようになったか)から生徒が自由に理由を挙げる活動を行うことで、問われていること、結果、原因の理解をしやすくなったと考える。自由に理由を挙げることができたため、生徒の発言の機会を多く設けることができた。
- ・イラストを使い人物の行動(結果)の場面、その人物が何をしていたかが原因と結果のつながりとなるようにし、したかったことに吹き出しをつけて示した。それによって原因と結果のつながりを理解しやすくなったと考える。
- ・なぜ手を洗っているのですかという問いに「きれいにしたかったからです」「手が汚れていたからです」と話す姿があったため、どのような順序で話すかわかりやすく伝えられるかを「話すこと」の学習で扱う必要があると感じた。例：「手が汚れていてきれいにしたかったからです」のように話す。
- ・題材の終盤、特定の人物の好みなど(例：〇〇さんはチョコレートクリームが好きだけどイチゴは好きではない)の情報をもとに、その人へのプレゼントを選び、なぜそのプレゼントを選んだか理由を話す活動を行った。場面が変わっても好みとプレゼントの情報から理由の考え方がわかり、思考力・判断力・表現力等の高まりを感じた。

